

東京音楽大学リポジトリ

Tokyo College of Music Repository

2022年度、博士共同研究実施報告

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2023-05-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村田, 千尋, Murata, Chihiro メールアドレス: 所属:
URL	https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/1482

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



2022年度、博士共同研究実施報告

村田 千尋（音楽学）

東京音楽大学大学院博士後期課程の必修科目「博士共同研究」は博士課程1年次、2年次に所属する全学生（2022年度は4名）と、各専攻から選抜された教員（2022年度は10名）によるゼミナールであり、学生が研究の姿勢と方法を学ぶ場として開設されたものである。本学大学院の特徴ある科目と言えるだろう。

毎年、共通課題を設定した上で、参加者それぞれが各自の関心に沿って研究発表を行い、全員で討議するという形式で進めている。学生も教員も学問系の専門を持つ者と音楽実践を専門とする者が相見え、それぞれの専門とは異なる分野の話を聴く機会となっている。学生よりも教員の数が多いという贅沢な学びの場であり、学生にとっては刺激と共に負担も多かったことであろうが、教員にとっても得がたい時間である。出席学生がこの授業を通して、基礎的な研究姿勢を身に付けてくれることを願うばかりである。

2022年度は「音楽演奏を考える」を共通課題とした。冒頭4月14日・21日に村田が基調報告として以下のように研究の方向性を示した。

* 現代において音楽はしばしば創作・演奏・聴取の三層構造として把握されるが、創作、演奏、聴取は一体のものであった。しかし、19世紀初頭に公開演奏会が定着して他人に聞かせることが一般化してから、自らは演奏せずに音楽を聴いて楽しむことと、他人が作った音楽を演奏するということが始まっている。

* 音楽は演奏を聴いて覚えるものであり、楽譜を媒介としないものであったが、1500年前後に楽譜を見て見て演奏するという習慣が誕生し、それ以降、特に19世紀からは作曲者のメッセージとしての楽譜を解釈し、再現する行為として演奏の重要性が増した。

* 以上から考えると、「演奏」について考察する枠組みとして次の様な研究法が想定できるであろう。

- ・「演奏」という言葉の語義や語源についての考察
- ・演奏についての哲学的考察

- ・演奏についての歴史的考察
- ・演奏の場についての考察
- ・演奏技巧についての考察
- ・演奏についての心理学的考察
- ・演奏についての生理学的考察
- ・楽譜と演奏の関係についての考察
- ・解釈と演奏の関係についての考察
- ・音楽における即興についての考察
- ・即興を巡る楽譜と演奏の関係についての考察

4月28日の第4回以降は学生及び教員が各自の専門性、関心に基づく研究発表を行い、毎回活発な討論を行った（出席者と実施日程は次頁の通りである）。

本報告書は、2022年度の共同研究出席者が、それぞれの担当回に発表した内容を発展させた研究論文を中心に収めたものである。参加者がこの授業を通して得た思いを汲み取っていただければ幸いである。

2022年度博士共同研究出席者

学 生	D2021-01 福田麻子 (Vn.) D2022-02 李子喬 (Fl.)	D2022-01 内崎章太 (P.) D2022-03 麻生海督 (Comp.)	
教 員	岡田敦子 (ピアノ) 星洋二 (声楽) 坂崎則子 (音楽学) 金城厚 (多文化音楽)	古部賢一 (オーボエ) 原田敬子 (作曲) 藤田茂 (音楽学)	服部洋一 (声楽) 下道郁子 (音楽教育) 村田千尋 (音楽学)

D2022-03 麻生海督は秋学期休学

2022年度「博士共同研究」実施日程

日 時	担 当	内 容
第1回 (4月7日)	村田千尋	ガイダンス
第2回 (4月14日)	村田千尋	基調報告1 「創作」、「演奏」、「聴取」
第3回 (4月21日)	村田千尋	基調報告2 「即興性」、「演奏しない演奏」
第4回 (4月28日)	福田麻子	演奏者が聴き手に伝えるものは何か?
第5回 (5月12日)	服部洋一	ガルシア・ロルカの歌曲
第6回 (5月19日)	金城厚	日本の民謡
第7回 (5月26日)	星洋二	オペラの上演について (歌手の立場から)
第8回 (6月2日)	古部賢一	オーケストラ演奏について
第9回 (6月9日)	嶋根淑子 (ゲスト)	アレクサンダー・テクニーク
第10回 (6月16日)	泉谷地春 (ゲスト)	4スタンス理論
第11回 (6月23日)	—	自由討論: これまでの教員発表を話題として
第12回 (6月30日)	内崎章太	ベートーヴェンが用いた漸次的強弱変化
第13回 (7月7日)	麻生海督	コミックバンド
第14回 (7月14日)	李子喬	モーツァルト、フルート協奏曲のカデンツァ
第15回 (7月21日)	—	自由討論: これまでの学生発表を話題として
第16回 (9月8日)	村田千尋	訳詞歌唱の問題点
第17回 (9月15日)	福田麻子	演奏者が聴き手に伝えるものは何か?
第18回 (9月22日)	李子喬	モーツァルト、フルート協奏曲のカデンツァ
第19回 (9月29日)	内崎章太	ベートーヴェンが用いた漸次的強弱変化
第20回 (10月6日)	—	自由討論: これまでの発表を話題として
第21回 (10月20日)	下道郁子	「演奏する」とは
第22回 (10月27日)	藤田茂	音楽作品と解釈の開かれ
第23回 (11月10日)	坂崎則子 + 水戸成雄	バロック・リュートの奏法
第24回 (11月24日)	—	自由討論: これまでの発表を話題として
第25回 (12月1日)	福田麻子	演奏者が聴き手に伝えるものは何か?
第26回 (12月8日)	李子喬	モーツァルト、フルート協奏曲のカデンツァ
第27回 (12月15日)	内崎章太	ベートーヴェンが用いた漸次的強弱変化
第28回 (12月22日)	—	報告書内容確認
第29回 (1月12日)	—	報告書原稿確認
第30回 (1月19日)	—	報告書原稿確認